

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

| | |
|--|--|
| 名称： アスクセンター北保育園 | 種別：認可保育所 |
| 代表者氏名：杉田 俊輔 | 定員（利用人数）：58名（61名） |
| 所在地：〒224-0003 横浜市都筑区中川中央1-19-20 プライムシティ1F | |
| TEL：045-914-5911 | ホームページ： https://www.nihonhoiku.co.jp/blog/centerkita/ |
| 【施設・事業所の概要】 | |
| 開設年月日 2008年4月1日 | |
| 経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社日本保育サービス | |
| 職員数 | 常勤職員： 14名 非常勤職員 7名 |
| 専門職員 | 保育士 15名 調理員 3名 |
| | 看護師 1名 事務員 1名 |
| | 栄養士 1名 |
| 施設・設備の概要 | 保育室 3室 トイレ 2ヶ所 |
| | 調理室 1ヶ所 事務室 1ヶ所 |
| | 園庭 無 |

③ 理念・基本方針

| |
|--|
| <p>【保育理念】 未来（あす）を生きる力を培う</p> <p>【保育方針】</p> <ul style="list-style-type: none">・自ら伸びようとする力を支えます・五感を養って感性を豊かにします・後伸びする力を育みます <p>【園目標】</p> <ul style="list-style-type: none">・元気にあいさつできるこ・たいせつにするきもちをもてるこ・たのしんであそぶこ <p>3つを掲げて園運営を行っている。 小学校就学前までの人間形成の土台をしっかりと築き豊かな心や、子ども一人ひとりの感性を大切にし日々の園生活を送れるようにしている。</p> <p>保育園でしか活動出来ないことを取り入れ、目には見えない非認知能力を育てていき、自己肯定感をしっかり高めていながら職員は保育を行っている。</p> |
|--|

④施設・事業所の特徴的な取組

- ◆子どもたちが主体となり活動を楽しむ
子どもたちの“やりたい”気持ちを大切に、日々の活動に取り組んでいます。また子ども自ら経験や発見を共有し園生活を楽しみ保育しています。
- ◆各クラス、フロアで体力づくりを行う
⇒※各クラスが室内でも運動遊びができるよう、鉄棒やマット、跳び箱など運動遊びができるように工夫しています。
雨の日でも各フロアでサーキット遊びを取り入れる等工夫をしながら年齢にあった運動活動を取り入れています。また、戸外では年齢にあった公園、遊具、集団遊びを通じて活動し体力作りに取り組んでいます。
- ◆子どもたちから積極的に元気よくあいさつをする
園目標で掲げている【げんきにあいさつできるこ】のように朝や帰り、友達同士、地域の方々等職員を含めあいさつをできるようにしています。
- ◆保育園でしかできない活動を取り入れていく
地域に借りてるシェア畑での収穫体験、田植え体験、もちつき体験を予定しており、食農にも力を入れています。
- ◆「五感で感じ、四季を大切に作る保育」の充実
園周辺の環境は自然がたくさんあり四季を感じることができます。様々な活動を通じて子どもたち一人ひとりが四季を感じられるよう、触れて興味関心を持てるようにしています。
- ◆子どもたち一人ひとりが自ら遊びこめる環境づくり
※部屋をコーナーで分けて子どもたちが遊びやすい環境設定、また自然物を取り入れた環境づくり食農、花、飼育なども保育の中で取り入れ、子どもたちの興味関心や創造性を培う活動を取り入れています。
異年齢保育（3、4、5歳児対象）を日々の活動のなかで取り入れていき、憧れや優しさなど築けるようにしています。

⑤第三者評価の受審状況

| | |
|---------------|-------------------------------------|
| 評価実施期間 | 令和4年8月1日（契約日）～ 令和5年4月7日（評価結果確定日） |
| 受審回数（前回の受審時期） | 10回（2018年度） |

⑥総評

- ◇特長や今後期待される点
- 1)食育に力を入れ、クッキング保育を取り入れています
食育に力を入れています。近隣の畑を借りて作物を育て、園前のプランターでも季節の野菜を育てています。お米は土作りから行いました。畑は4畝借り、キャベツ、ブロッコリーなどを作りました。収穫した野菜は、実際に触れてみたり、匂いを嗅ぐ、切って観察する、給食やおやつで食べるなど保育の中に取り入れています。3歳以上児は月1回自分たちで給食やおやつを作ります。食育活動を通して、子どもたちは「食」への関心を高め、皆で協力することを学び、野菜や給食を作ってくれている人たちへの感謝の気持ちを育んでいます。
 - 2)異年齢保育で、子どもたちの学び合いの場を提供しています
朝夕の混合保育とは別に異年齢保育を実施しています。今年度はお店屋さんごっこ週間を設け、3歳以上児がグループに分かれ、それぞれどんなお店を出すかから話し合い、必要な物を制作し、2歳児をお客様として招待しました。異年齢で散歩や遠足、クッキング保育でうどん作りに挑戦したりしています。年上の子どもが年下の子どもの世話をし、思いやりを育んだり、年下の子は年上の子に憧れて真似をしたり、自然

に成長しあう場となっています。

3)若い職員を始めとして人材育成に力を入れています

人材育成の取組が適切に行われています。園の業務目標に沿い、年初に職員は自ら課題・目標達成ポイント・対策を「目標管理シート」に策定し、4半期ごとに園長面談を実施し目標達成度の確認を行っています。また「個人別年間研修計画」では、園長が本人のスキルや課題のニーズにふさわしい研修を指定して受講推進しています。新卒者や中途採用者等には「チューター制度」を導入し、経験の近い職員を担当として悩みの相談や振り返りを行ったりする場を設けています。

4)事業計画をベースとした園運営が期待されます

事業計画書並びに前年度の事業報告書が作成されていません。職員の参画や、意見集約・反映の仕組みを定め、年間活動の振り返りを基に活動報告書を作成し、合わせて新年度への課題・重点取組等の目標を掲げた事業計画書を作成することが期待されます。なお、計画では数値目標や期末での達成基準を明確にすると共に、職員・保護者に計画内容を周知されることが期待されます。

5)地域との交流・貢献が期待されます

園発足当初の行き違いで自治会への加入や園が入居しているマンション管理組合との連携・交流が出来ていません。今後、地域の自治会や民生・児童委員、マンション管理組合等との連携を図り、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めると共に、育児相談会などの実施が期待されます。また、地域やマンションの防災センターと連携した防災訓練や災害用備蓄品、AEDを活用した地域の安全・安心に寄与する活動の実施も期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

自園の取り組みを改めて確認しつつ、特徴や強みを再認識することができました。この評価を元に強みを伸ばしつつ、地域交流・地域貢献ができるよう新たな取り組みを行っていきます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり